

中村 信博

NAKAMURA Nobuhiro

教授

【現在の専門分野】

宗教学、神学、聖書学、メディア文化史

【現在の研究テーマ】

旧約聖書学、キリスト教におけるテキスト・メディア・倫理

【学 位】神学修士（同志社大学）

【所属学会】日本基督教学会、日本旧約学会、日本オリエント学会、日本ユダヤ学会、宗教倫理学会、
日本キリスト教文学会関西支部、京都ユダヤ思想学会、
American Academy of Religion、Society of Biblical Literature

■ 主要研究実績

（著書）新共同訳 旧約聖書注解I（共著） 日本基督教団出版局	1996年
新共同訳 旧約聖書略解（共著） 日本基督教団出版局	2001年
聖書 語りの風景（共編著） キリスト新聞社	2007年
（論文）ダビデの哀悼歌「弓」の研究 日本の神学	1994年
旧約聖書における魂論の可能性 文部科学省科学研究費補助金特定領域研究(A) 118「古典学の再構築」研究成果報告集	2003年
知恵・品位・未来 同志社女子大学総合文化研究所紀要	2005年
聖餐の起源としての過越しの祭 福音と世界	2007年
「天空の城ラピュタ」と「バベルの塔」 同志社女子大学学術研究年報	2008年
キリスト教における生・死・復活の理解—視点としての葬送儀礼—	
死生観と超越—仏教と諸科学との国際的研究	2010年

宗教倫理学会 評議員・事務局長	2004年～2006年
日本クリスチャンアカデミー 常任理事	2005年～2012年
宗教倫理学会 評議員・副会長	2008年～・2012年～

■ 学内外研究費による主要研究活動歴

科学研究費補助金（奨励研究(A)）ダビデ王位継承物語の文芸学的研究	1988年
科学研究費補助金（奨励研究(A)）古代イスラエル王制初期における宗教的諸象の変化過程とその影響	1992年
科学研究費補助金（特定領域領域研究(A)）古典学の再構築「古典の世界像」班 「ユダヤ教キリスト教における創造的営為としての聖典解釈の比較研究」（研究分担者）	2001年～2002年
同志社大学 一神教学際研究センター（文部科学省COE）共同研究員	2003年～2008年
龍谷大学人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター （私立大学戦略的研究基盤形成支援事業）共同研究員	2010年～2012年

■ 研究・社会活動等

日本基督教学会 幹事	2002年～
日本クリスチャンアカデミー関西活動センター 運営委員	2003年～

■ 主要な担当授業科目

【大学院】メディア文化特殊演習、メディア文化発展演習など
【大 学】聖書、メディア文化史、情報メディア演習など

聖書の解釈について多角的に考察し「他者性のわかる人材」の育成に貢献する

旧約（ヘブライ語）聖書の成立過程とその文献学的解釈を中心に、宗教的理念とメディア、そして宗教的規範と倫理との関係を基礎的に研究しています。例えば旧約聖書は、キリスト教だけではなく、ユダヤ教にとっても信仰の基準となる正典ですが、多義的な視点からアプローチすることによって、宗教間対話の可能性を示唆してくれると考えています。いわゆる「セムの一神教」の起源となった旧約聖書の研究を基礎に、ユダヤ教とキリスト教が対話できるような聖書解釈や、その応用としてのメディア、そして現代社会が求める倫理規範をとりあげ、宗教的基礎論の問題に取り組んでいます。

昨今の国際社会においては、かつてないほど一神教同士の共存の可能性を探る必要性が高

まっています。そのなかでいかなる平和論構築が可能か、日本キリスト教団正教師の活動を続けて来た一人の宗教者としての立場から、力を尽くしたいと思います。

その一端として、宗教倫理学会には設立から関わり、（財）日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス活動センターにも積極的にかかわっています。いずれにも共通するのは、異なる宗教的立場に立つ者同士が対話することを重んじ、宗教間のみならず広く各分野の人々との対話を積極的に進め、その成果を社会へ還元していこうという理念に基づいていることです。

それらの活動の成果は、担当している授業やゼミでも学生たちに伝えていきたいと考えています。学生たちには、人類の長い歴史の



メディア革命の出発点となった
「グーテンベルク聖書」（複製版・本学所蔵）

なかで形成されてきたさまざまな宗教性とその論理的、倫理的枠組みを尊重し、異なる価値体系を目の前にしても、他者の立場になれる人間になってほしいと願っています。そういった「他者性のわかる」人物は、これからの社会で強く求められるのではないのでしょうか。